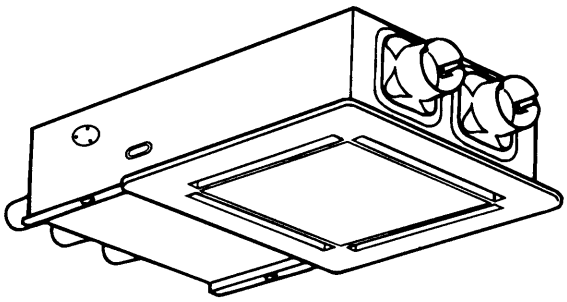
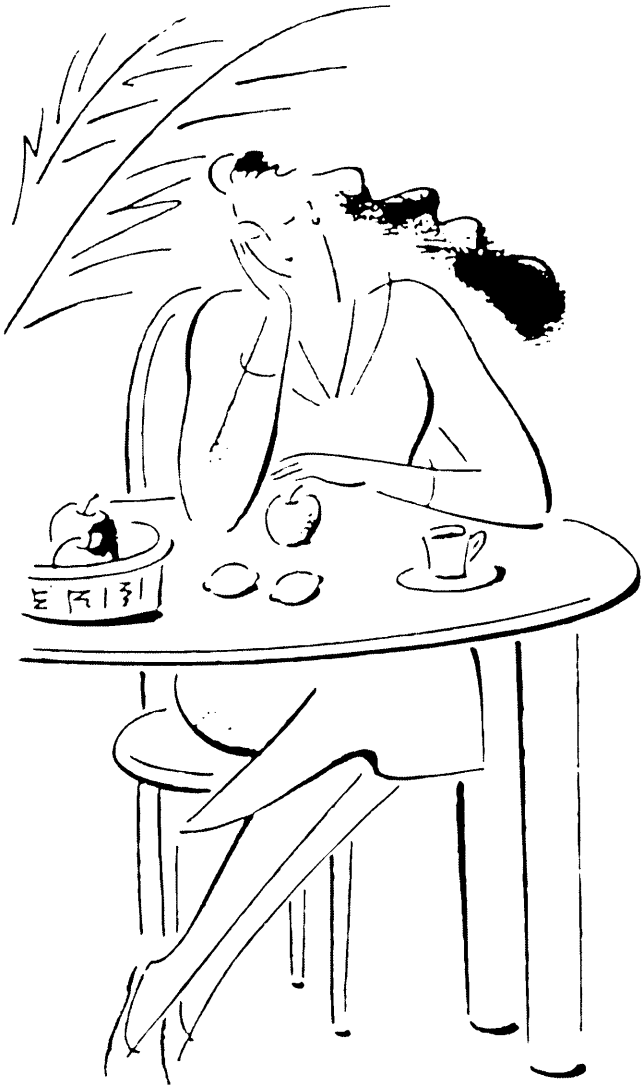
TOSHIBA

東芝全熱交換ユニット
取扱説明書



形名
VFE-140KFP2
VFE-170KFP2



もくじ

安全上のご注意……2～3
各部のなまえ……4
使いかた……4
お手入れのしかた……5～6
お手入れ後の組立……7
つぎのことは必ず守ってください……7
仕様……7
修理を依頼される前に……8
ご不明な点や修理に関するご相談は……8

- このたびは東芝全熱交換ユニットをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。
- この商品を、安全に正しく使っていただくために、お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。
- お読みになったあとは、いつも手元においてご使用ください。
- 取付説明書を、販売店または工事店から必ず受けとって保存してください。

安全上のご注意

●ご使用になる前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●表示と、意味は次のようになっています。

表　示	表示の意味
⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、※物的損害の発生が想定される内容を示します。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

図記号	図記号の意味
改造禁止	⃠は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は⃠の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は、「改造禁止」を示します。
電源を切る	●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は●の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は、「電源を切る」を示します。

⚠警告

取付・移設は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼すること

取付工事が不完全なときは、水漏れ・火災・感電・部品落下によるけがの原因になります。

取付は依頼

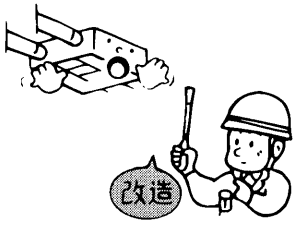
取付は、取付説明書に従って確実に行うこと

取付が不完全なときは、水漏れ・火災・感電・部品落下によるけがの原因になります。

確実に取り付ける

改造はしないこと

火災・感電・けがの原因になります。



改造禁止

修理技術者以外の人は分解、修理（※）をしないこと

火災・感電・けがの原因になります。
※修理は、お買上げの販売店、または東芝家電修理ご相談センターにご連絡ください。

分解・修理禁止

こげ臭い、煙がでているなど、異常のときは、運転を停止し、電源ブレーカを「切」にすること

異常のまま運転を続けると、火災・感電の原因になります。
※修理はお買上げの販売店または東芝家電修理ご相談センターにご連絡ください。

電源を切る

可燃性ガスが漏れたときは、窓を開けて換気すること

電源スイッチを入れたり切ったりすると、ガス爆発の原因になります。

運転・停止禁止

⚠警告

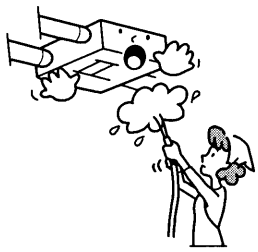
お手入れのときは運転を停止し、電源ブレーカを「切」にすること

感電・けがの原因になります。

電源を切る

電気部品に、水や洗剤などをかけたり、吹きつけたりしないこと

漏電し、火災・感電の原因になります。



水かけ禁止

本体カバーの隙間から棒や針金などを入れないこと

感電・けがの原因になります。

接触禁止

電源は交流100Vを使うこと

交流100V以外の電源を使うと、火災・感電の原因になります。

交流100V使用

ぬれた手で、スイッチに触れないこと

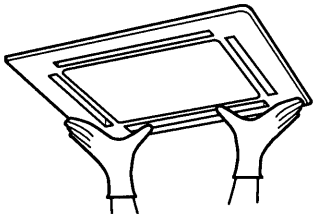
感電の原因になります。

水ぬれ禁止

⚠注意

本体カバー・熱交換器などの部品は、確実に取り付けること

落下し、けがをする原因になります。



確実に取り付ける

本体に異常な振動が発生した場合、使用しないこと

本体・部品が落下し、けがをする原因になります。

使用禁止

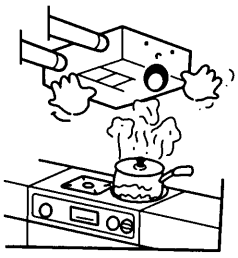
長期間ご使用にならないときは、安全のため電源を切ること

絶縁劣化による火災・感電の原因になります。

電源を切る

炎が接近したり、あたる恐れのある場所には取り付けないこと

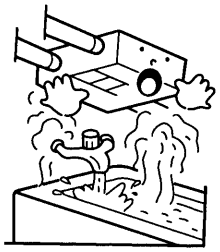
火災の原因になります。



取付禁止

浴室など湿気の多いところでは使わないこと

火災・感電の原因になります。



使用禁止

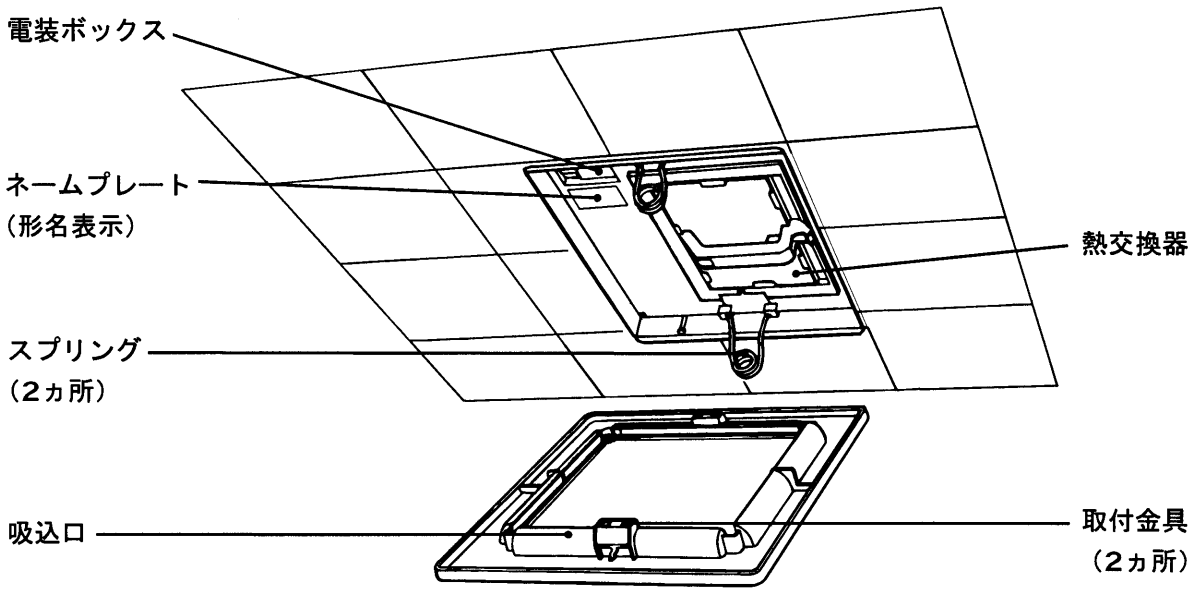
お手入れのときは、ゴム手袋を着用すること

手袋を着用しないと、けがの原因になります。

手袋着用

各部のなまえ

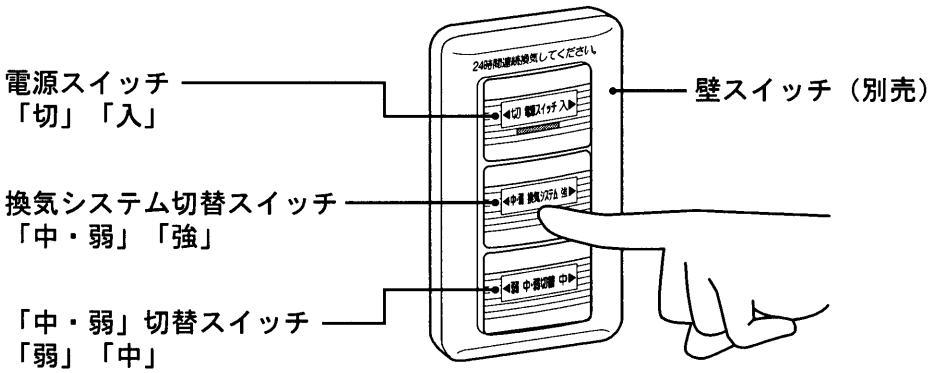
本　体



本体カバー

使いかた

この製品の運転は、壁スイッチで操作します。



※換気システム切替スイッチを「中・弱」にした場合のみ切替えできます。

建築基準法に定められた機械換気設備としてご使用の場合は運転を止めないでください。
長時間停止した場合、屋内環境が悪化し法律で定める基準をこえることがあります。

メモ　●使用初期に、熱交換器のにおいが出る場合がありますが、異常や有害ではありません。

お手入れのしかた

お手入れの前に

⚠警告

お手入れのときは運転を停止し、電源ブレーカを「切」にすること

感電・けがの原因になります。

電源を切る

⚠注意

お手入れのときは、ゴム手袋を使うこと

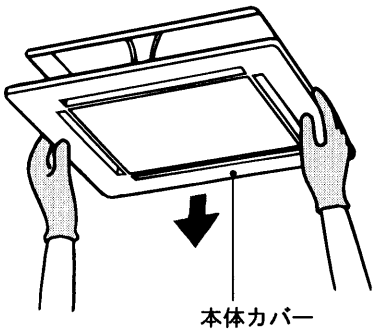
けがをする原因になります。

手袋を使う

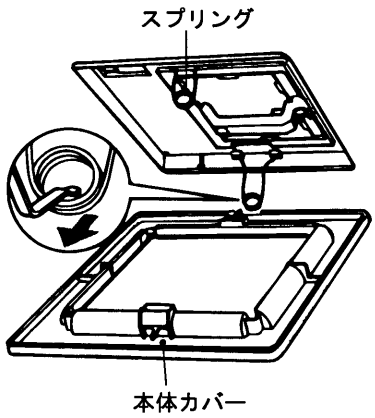
●台所用中性洗剤をご使用ください。
化学ぞうきんやスプレー式クリーナー、シンナー・アルコール・ベンジン・灯油・ガソリン・みがき粉・アルカリ洗剤は使わないでください。

本体カバーのはずしかた

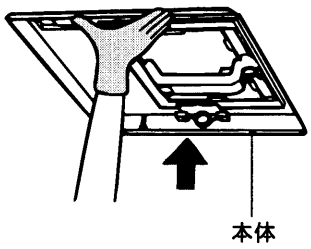
1 本体カバーが止まる位置までゆっくりと、真下へ引き下ろし、スプリングを固定します。



2 本体カバーを横にずらして、スプリングから本体カバーを外します。



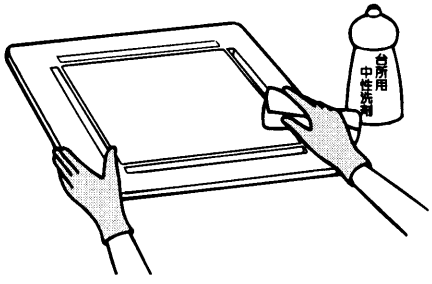
3 お手入れのとき、変形させないためスプリングは、本体内におし込んでください。



本体カバーのお手入れ

あまりよごれないうちに（3ヵ月に一度くらい）

●本体カバーは台所用中性洗剤溶液に浸し、よくしぼった布でふきとります。
洗剤が、残らないよう十分ふきとってください。
タワシなど固いものを使うと、きずがつきますのでおやめください。

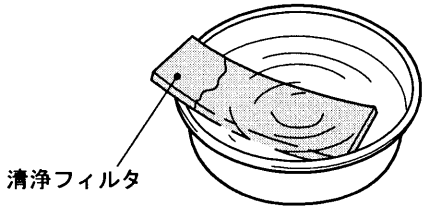


清浄フィルタのお手入れ

（6ヵ月に1回以上）

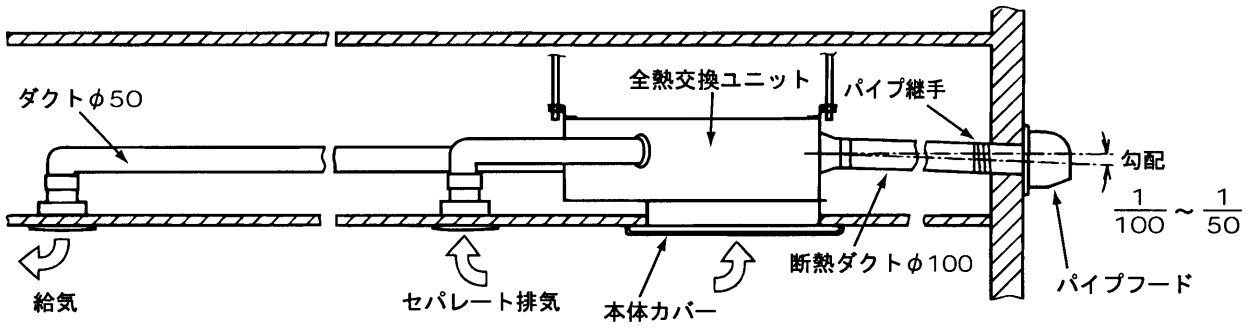
■清浄フィルタは、掃除機でホコリを吸い取ります。
よごれのひどいときは、水か、ぬるま湯に台所用中性洗剤を溶かして軽く押し洗いし、水などで洗剤を流してから、十分に自然乾燥させます。熱湯で洗ったり、もみ洗いや、力を加えて曲げることは絶対にやめてください。

●押し洗い回数5～6回を目安に、交換用外気洗浄フィルター（F-110X）を交換してください。



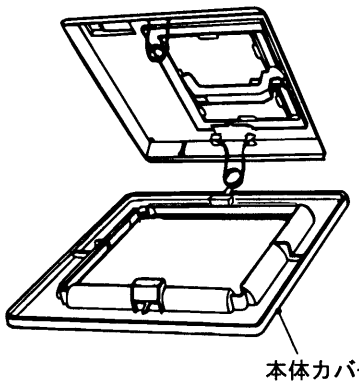
お手入れのしかた（つづき）

据付状態図

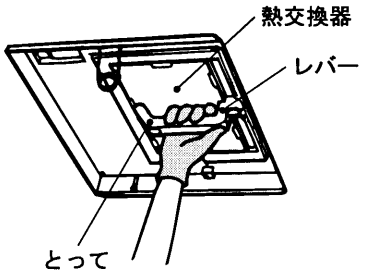


熱交換器・フィルタのはずしかた

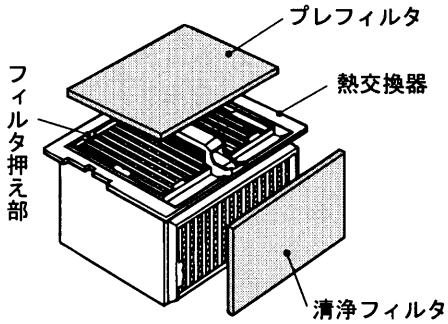
1 本体カバーをはずします。



2 熱交換器のとってをにぎり、人さし指で、とって内側のレバーを軽く押えながら真下へ引き出します。



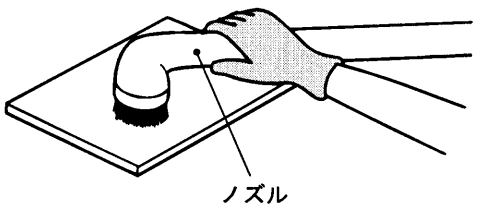
3 熱交換器から、プレフィルタと、清浄フィルタをはずします。
フィルタ押え部で、フィルタを軽くつまみ引きはがします。



プレフィルタのお手入れ

（6ヵ月に1回以上）

■掃除機により、プレフィルタの表面のごみ・ほこりを取ります。

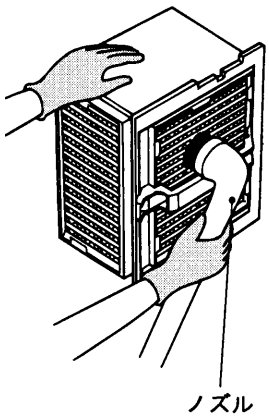


熱交換器のお手入れ

（1年に1回以上）

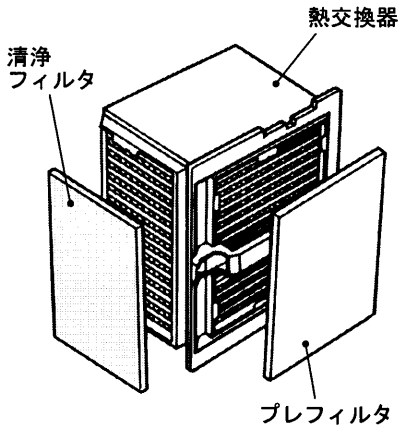
■掃除機により熱交換器の表面のごみ・ほこりを吸い取ります。

- 掃除機のノズルは、ハケ付きのものを使い、ハケを軽く当てて掃除してください。
  掃除機のノズルで熱交換器の目をつぶさないでください。
- 熱交換器は、紙ですので絶対に水洗いはしないでください。



お手入れ後の組立

熱交換器・フィルタの取り付けかた



● お手入れが、終わりましたら取り付けは、次の手順で行ってください。

1.プレフィルタと、清浄フィルタを熱交換器に取り付けます。
清浄フィルタは、熱交換器に確実に取り付けてください。

2.プレフィルタと、清浄フィルタを取り付けた熱交換器を、本体に取り付けます。
カチッと、音がするまでさし込みます。

3.本体カバーを、取り外した逆の順序で本体に取り付けます。

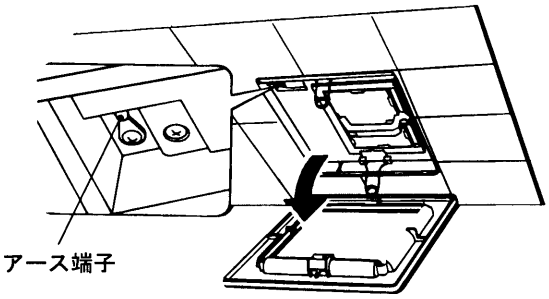
● 取り付けが終わりましたら運転して、異常な振動や騒音がないことを確認してください。

つぎのことは必ず守ってください

取り付け状態の確認

■熱交換器・本体カバーが確実に取り付けられているか確認してください。
取り付けが、不十分ですと振動したり異常音を発生します。

■アースを確実に
使う前に、アース線が確実に取り付けられているか確かめてください。



取り付け場所・取り付けについて不具合があったときは、お買い求めの販売店または工事店へご相談ください。

お願い

●熱交換器・フィルタに、ほこりなどが多量に付着したまま運転しますと、機能低下を起こして故障の原因になります。
●ドライヤー、ストーブの温風など高温での乾燥はやめてください。フィルタが変形することがあります。
●火に、あぶることは絶対に行わないでください。
●プレフィルタ・清浄フィルタを入れ忘れると、熱交換器にごみが詰まり、使えなくなることがあります。
●モーターなどの電気部品は、掃除のとき絶対に水に浸さないでください。

仕様

（50Hz・60Hz共用）

形　名	定格電圧 (V)		周波数 (Hz)	消費電力 (W)	給気風量(m^3/h) 3口時	4口時	5口時	6口時	セパレート 排気風量(m^3/h)	有効換気量率 (%)	温度交換効率 (%)	騒音 (dB)	質量 (kg)
VFE-140KFP2	100	強	50	52	125	132	140	−	17	90	57	33.5	12.0
			60	56	130	137	145	−	17		57	34	
		中	50	48	110	115	120	−	15		60	31	
			60	50	115	120	125	−	15		60	31.5	
		弱	50	38	84	87	90	−	12		64	27	
			60	38	86	89	92	−	12		64	27	
VFE-170KFP2	100	強	50	52	150	156	164	170	19	90	53	36.5	12.6
			60	60	150	156	164	170	19		53	36.5	
		中	50	39	125	130	135	140	17		57	33.5	
			60	44	125	130	135	140	17		57	33.5	
		弱	50	24	90	93	97	100	13		63	27	
			60	26	85	88	92	95	13		63	26.5	

● 風量値は、JIS C 9603 チャンバー方式による測定値です。騒音値は当社無響室における、本体カバー中央下方1.5mの測定値です。
セパレート排気は、給排気グリル（DV-05KMV）とダクト配管（6m曲げ2回）を組み合わせた時の値です。

修理を依頼される前に

下記のような現象が生じた場合は、お客さま自身で点検してください。

現　象	点　検
スイッチを、入れても風が出ない。	●ブレーカーが、切れていませんか。 ●停電ではありませんか。
運転中に、異常音や振動がする。	●全熱交換ユニットが、確実に取り付いていますか。 ●本体カバーが、本体に確実に取り付いていますか。 ●熱交換器が、確実に取り付いていますか。

● 上記の点検をしても症状が変わらないときは、事故防止のため、すぐに電源を切って、お買い上げの販売店・工事店に点検・修理をご依頼してください。

※ご自分での修理は、危険ですから絶対にしないでください。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびに、お取り扱い・お手入れに関するご不明な点は **お買い上げの販売店にご相談下さい。**

ご転居されたり、ご贈答品などで
販売店に修理のご相談ができない場合

東芝家電修理ご相談センター

フリーダイヤル 0120-1048-41

携帯電話・PHSからのご利用は
東日本地区（北海道、東北、関東、山梨県、静岡県、新潟県、沖縄県）044-543-0220
西日本地区（　上記以外　）06-6440-4411

電話で 24時間 365日 お応えします

新製品などの商品選び、
お取り扱い・お手入れ方法などのご相談

東芝家電ご相談センター

フリーダイヤル 0120-1048-86

携帯電話・PHSからのご利用は　03-3426-1048
FAX 03-3425-2101（365日・8:00～20:00受付）

※電話受付：365日・24時間受け付けます。

※フリーダイヤルは、携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません。

修理を依頼されるときは　出張修理

●ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源を切ってお買い上げの販売店・工事店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容

品　名	全熱交換ユニット
形　名	VFE-140KFP2, VFE-170KFP2
お買上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご 住 所	付近の目印等も合わせてお知らせください。
お 名 前	
電話番号	
訪問希望日	
便利メモ	お買上げ店名 ☎（　　）　　—

修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技 術 料	故障した商品を正常に修復するための料金です。
部 品 代	修理に使用した部品代金です。
出 張 料	商品のある場所へ、技術者を派遣する料金です。

補修用性能部品の保有期間

●換気扇の補修用性能部品の保有期間は、製造打切後6年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

愛情点検

●長年ご使用の換気扇の点検を！

ご使用の際
このようなことは
ありませんか。

- ●スイッチを入れても羽根が回転しない。（風が出ない。）
- ●運転中に異常音や振動がする。
- ●回転が遅い、または不規則。
- ●こげ臭い、においがする。

ご使用中止

故障や、事故防止のため、電源を切って必ず販売店・工事店にご連絡ください。
点検、修理に要する費用は販売店・工事店にご相談ください。

東芝キヤリア株式会社　換気統括部

〒108-0075　東京都港区港南 2-12-32　サウスポート品川

本商品は、ご愛用終了時に、再資源化の一助として、主なプラスチック部材に材料名を表示しています。

ET99910301